

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 嘉代治

人のせいにしない！

何か、失敗をしたときは、自分だけが悪いという例は少ないと思います。必ず、他者にも責任があるものです。例えば、他人に言われたくないことを言われたので、頭にきて相手を殴ってしまったというケースを考えてみましょう。このトラブルは、手を出してしまった人が「暴力をふるってごめんなさい。」と謝罪して、暴言を言った人も「私の方も気にしていることを言ってしまうてごめんなさい。」と謝罪して解決するのが普通だと思います。トラブルは、必ずお互い反省すべきところがあるので、お互いが自分の悪かったことを認めて、謝罪し合うことが大切だと思います。

しかし、お互いが自分のことを顧みず、相手の反省すべきところばかり指摘し合ったら、解決はせずに対立するしかなくなります。お互い反省すべきことを素直に反省して相手に謝罪するのが大切だと思います。暴力を振るった方が、「君が暴言を吐いたから、私は暴力を振るったのです。このトラブルはあなたに原因があります、謝罪してください。」と、相手のことを責めたら解決するはずはありません。

トラブルは、どちらかが先に謝罪しなければことは進みません。どちらから謝罪するかは自分の反省すべきことを素直に見つめれば、自ずとわかると思います。

こんな笑い話があります。お店の入り口で販売されていたお菓子は、レジからは死角で店員の目の届かない状態で販売されていました。そのお菓子を思わず万引きしてしまった子供が補導されました。保護者が呼ばれて、店員が万引きがあったことの事実を保護者に伝え、「こんな店先の目の届かない場所に商品を置いたら、善悪がまだ十分に判断できない子供が万引きしてしまうのも無理はないと思うます。店は、万引きがしにくいように商品を陳列する責任があると思います。物事の判断力がまだ弱い中学生の息子が万引きしてしまったのも、配慮がされていないこの陳列の仕方ではしょうがないことだと思います。店の方の陳列の仕方に問題があります。」とすごい勢いで、保護者が店員に食ってかかりました。すると「私たち、店の方も商品の陳列の仕方が防犯を十分に意識できていなかったと思います。申し訳ございませんでした。」と謝罪した。盗まれた方が謝罪するという滑稽な結末です。



トラブルが起きたとき、常に自分の反省すべきことをしっかり振り返って、誠意をもって謝罪できる人になってほしいと思います。